その「物語」、の物語。

"ペログリ"的複眼思考の味わい vol.050

a taste of Ya'ssy

田中康夫

たなかやすお●'56年生まれ。衆議院議員、新党日本代表、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選、'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選。【公式ブログ】www.nippon-dream.com/

宰相NÖDÁの傍観者的呟きが痛恨の「頭脳流出」を招いた

通常、国会の質問で1分間に喋る字数は320字程度なのだとか。衆議院事務局で速記や議事録を担当する記録部の見解です。但し、と微苦笑されました。田中さんの場合、過去の質疑に基づき算定すると350字強です、と。

2年半で本会議代表質問に登壇5回。予算委員会質疑が15回。計測されていたとは、う〜む、侮れません。外務省も経済産業省も、職務精励努力を怠らなければ、〝羊の皮を被った狼〟なTPPが日本を救うだなんて、嘘八百の大本営発表を真顔で行う失態を演ぜずに済んだのにね。

で、〝宰相NÖDÁ〟の掛け声ばかり勇ましい「大増税・TPP・放射能」に不安を抱く国民の疑問を質すべく登壇した、先週末27日の代表質問では記録更新、しちゃいました。あれも述べねば、これも触れねば、と初稿段階では5千字。質問項目を提出後も推敲を続けて漸く4千字。残り500字。これ以上は難しく、削除は断念。

自分で言うのも何ですが、自身の「滑舌」に期待して登壇。後で確認すると、喋り始めから喋り終わりまで10分20秒。セーフ。映像と議事録はHPで御覧頂くとして、已む無く全面削除し、次回の予算委員会での質疑に回したのが、中村祐輔氏の辞任問題。

画期的な癌治療法として世界中の注目を集める「がんペプチドワクチン」開発の第一人者が東京大学医科学研究所教授の中村氏。政府主導で内閣官房に設置された医療イノベーション推進室長にも就任し、数十年先を見据えた制度設計を、と意気込んでいた彼は何故、昨年末に辞任したのか？

早とちりを防ぐべく付記すれば、「このままでは医療分野で欧米の植民地となるのは時間の問題だ」と危機感を抱く彼は、米国型の自由診療導入で濡れ手に粟を企むハゲタカ医療ビジネス業界の輩とは対極に位置します。

「医薬品や医療機器で1・7兆円の貿易赤字を抱え、ペースメーカーも全て他国製を使う等、凄まじい遅れ振り。日本経済を活性化し、医療の質を保つには医学・医療改革が不可欠。絶好の機会と思い室長を引き受けた」彼は、推進室に予算権限が無く、各省庁が省益保持で牽制し合う惨状を打開すべく宰相NÖDÁに直訴。

が、返ってきたのは「縦割り行政なのですね」と傍観者的呟きだったと伝え聞きます。皮肉にも彼は近く、米国のシカゴ大学にスタッフと共に移籍します。痛恨の「頭脳流出」。多大なる「国民益・国家益」の損失です。

医療を憂う中村氏の足下にも及ばねど、迷走する日本を立て直すべく微力ながらも代表質問の原稿に呻吟の最中、買い求めてきたのは、「ブラウンライス・デリ おもて」の「肴揃え」（1300円）。

無論、イデオロギーとしての「菜食」「自然食」の信奉者には非ず。然し乍ら、精魂を集中する際には威力を発揮します。表参道脇の路地の隠れた胆力補給処です。

今週の逸品

肴揃え 1300円

卵、乳製品等の動物性食品、砂糖、更には保存料や添加物を排した惣菜や御飯が並ぶ。肴揃え（1300円）は呼称どおり、肴的分量で15種類余りの素材を用いた惣菜が詰められている。青菜の胡麻和えを始めとする惣菜、玄米むすび等も単品で販売。店内でも飲食可能。別棟には21時迄営業のブラウンライス・カフェが存在。より落ち着いた空間で各種の惣菜を玄米御飯、手作りパンと共に。テラス席はペット同伴可能。飲料も充実。

【ブラウンライス・デリ おもて】東京都渋谷区神宮前5-1-8 ブルーヒルズ1F ☎03-5778-2383
営11:00〜19:00 日曜営業・不定休 禁煙 http://www.brown.co.jp/

illustration by Hajime Anzai